厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

総括研究報告書

健康志向型による乳幼児健康診査の介入効果（育児満足度・育児能力・育児不安軽減・対処行動）に関する対照群を含む追跡研究研究　（H10-子ども-011）

主任研究者　　星　旦二　（東京都立大学）

研究要旨：母子保健活動における根幹をなす乳幼児健康診査のシステムに、健康志向型の子育て支援方式を採用して、その活動効果を明確にする調査研究を実施した。まず、健康志向型子育て支援モデルと教育支援介入マニュアルを作成し、予備調査を実施した。初年度の予備調査を実施した後に、宮城県内 5 町と神奈川県内２市の乳幼児健康診査受診者を対象フィールドとして、本調査を実施している。調査デザインは、対象を無作為に二分して比較できるように対照群と介入群に分けた。介入群に対しては、調査対象地区の職員と共に新しく作成した介入マニュアルを用いた健康学習による介入を実施して、活動効果を追跡調査している。

予備調査の結果では、事前と事後のアンケート調査により育児不安対処行動や育児満足度の比較を行い、介入効果を統計学的に明らかにした。その結果、介入群に受診満足度が高く、対処行動がポジティブであることがわかった。本調査による追跡効果を明確にする調査は現在調査分析中であり、最終年度にはマニュアルを作成する予定である。

分担研究者
渡部　月子：神奈川県立衛生短期大学（講師）
標　美奈子：神奈川県立衛生短期大学（講師）
山崎　秀夫：東京都立大学（助教授）

A．研究目的

厚生省が発表した「母子保健マニュアル」には「子育て支援の中心的役割」「疾病志向型から健康指向型」へシフトさせていくことが明記された。母子保健の業務にも子育てグループの育成や母親同士のネットワークづくりなどの業務が増大しこの理念を具体化する方向がとられている。しかし乳幼児健康診査を健康志向型へと転換するための実践マニュアルは、国レベルでは未だ完成されていない。

本研究は乳幼児の母親を対象として育児不安の規定要因を明らかにするとともに、乳幼児健康診査において、健康志向型に子育てを支援する介入策を企画・実践し、育児不安および健康診査を受診しての満足度を健康指標として、その介入効果を明らかにすることである。

B．研究方法

主として介入実証疫学を活用し、同時に記述疫学、分析疫学を活用する。

Ⅰ　健康志向型の母子保健に関する総合的な文献レビューから、育児不安規定モデルと各変数的指標の検討をする。

Ⅱ　健康志向型の子育て支援介入モデルの作成

Ⅲ　事前・事後アンケートの作成と実施

①事前調査

４カ月児健康診査の受診１カ月前に郵送する健康診査の案内にアンケート用紙を同封し、健康診査当日回収する。この事前調査により介入前の２群の属性を明らかにし、２群間に差がないことを確認する。健康診査の当日によって対照群と介入群の２群にわける。

②４カ月児健康診査における介入

介入群に対しては、新しく作成したマニュアルを用いて実施し、対照群には従来の方法で対応する。

③事後追跡調査

健康診査受診後１カ月後のアンケートによる追跡調査を実施する。

C．研究結果

1)本研究に関連する国内外における研究状況

保健所や市町村が実施している乳幼児健康診査は対象月齢に乳幼児全数の対象を通して疾病や異常の早期発見やリスクの早期発見による疾病等の発生予防のための保健指導に結びつける機会として重要視されてきた。しかし、1989 年カナダでは 4,761 名を対象とした無作為症例対照研究の結果、精神発達上の問題を早期発見し教育的介入を行うことは小学校入学後の成績向上にはつながらないうえ、母親の不安を増加させていることが明らかになり就学前の乳幼児健康診査からデンバー方式発達スクリーニング・テストを除外する勧告を出した。

2)研究目的と調査モデルの設定

我が国では育児不安に関する研究が多く行われその解消に向けての提案はなされているが、育児不安を解消するマニュアルを作成し、教育効果を無作為抽出した集団を対象にして科学的に評価した研究は見あたらない。

そこで、既往研究より育児不安と関連するとされる要因を個人属性と子育て環境、対処行動、自己価値、受診結果とした不安規定要因モデルを作成し、健康志向型の子育てが可能となる支援介入モデルを設定して、その効果を明確にすることを研究目的とした。

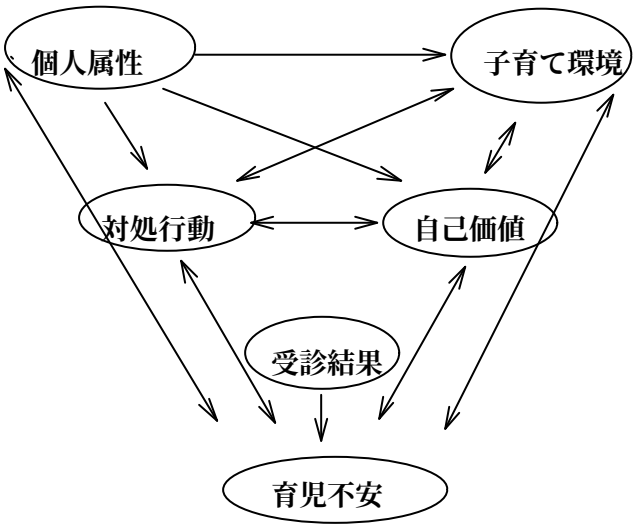


図１　育児不安規定要因

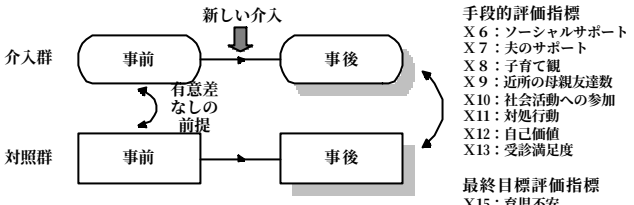


図２：健康指向型の子育て支援介入モデル

3)調査対象と調査デザイン

調査対象地区は、宮城県登米保健所管内５町及び神奈川県内２市である。

対象者を生年月日により、介入群と対照群の２群に分類し、事前調査によって２群間に差のないことを確認して、事後調査によって２群の対比によって介入効果を明らかにする。

平成 11 年 8 月から 11 月を対照群とし、12 月から平成 12 年３月を介入群とした。

４か月児健康診査受診対象者は約 300 名である。

受診する１か月前に郵送する健康診査の案内にアンケートを同封し、健康診査の当日回収した。アンケートは育児不安尺度（８項目）簡易育児不安尺度（１項目）対処行動尺度（９項目）自己評価尺度（10 項目）子育て観尺度（６項目）ソーシャルサポートの人数（１項目）ソーシャルサポート尺度（２項目）近所の母親友達数（１項目）社会活動への参加（１項目）個人属性（７項目）事後調査では介入群と対照群に対して事前調査に受診満足度（２項目）乳幼児健康診査への要望（自由記載）を加え個人属性を除いたアンケート調査を受診後４週間後に実施した。これらに健康診査の受診結果を加えて育児不安規定要因を分析するとともに２群間の比較を行い介入の効果を明らかにする。

4)新しい教育介入と教育方法

新しい新しい介入方法を実施できる場は「集団指導」の場である。新しい相互支援の場を企画・実践するにあたり、４カ月児健康診査を実際に担当している登米保健所管内５町及び神奈川県内２市の保健婦・栄養士等とともに共通理解として議論し、子育て支援マニュアルを作成した。

健康診査のモデルを図３に示す。

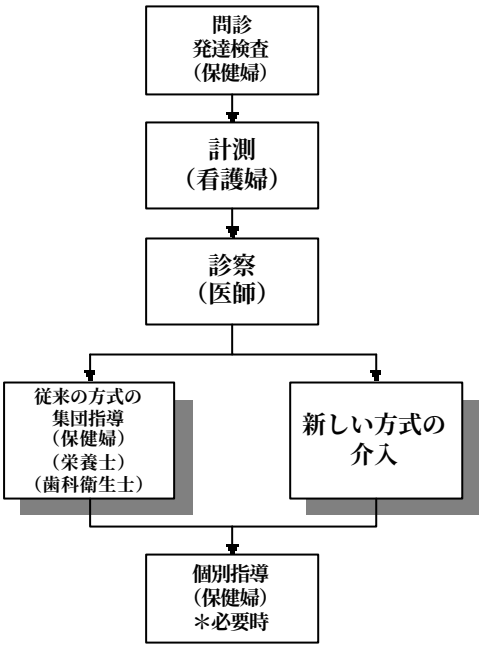


図３　乳幼児健康診査のフロー

5)健康志向型の子育て支援モデル

健康志向型の子育て支援策の介入を具体化するうえで参考にしたのは厚生省が発行した「母子保健マニュアル」である。特に「保護者の育児への不安を解消する」「乳幼児健康診査の目的は疾患のスクリーニングのみならず、育児や子どもの健康に関する、保護者の不安を解決することも大きな目的である」「個別の問題に対しては一人ひとり個別に対応が必要であるが、グループワーク等を取り入れた形での集団指導は個別の保健指導とは異なり、参加者が、『みずから考える』機会となる」「同じ年代の乳幼児が一堂に会する場を利用して集団指導を行うことにより『指導者からの助言』だけでなく、『子育て仲間の経験』を聞くことも可能であり、地域との交流が乏しい両親にとっては新鮮な体験となる」という点を具体的な形で展開できるように考慮した。また基本的なコンセプトはアメリカ合衆国厚生省が示した「INFANT　CARE」にある。ポジティブな発想から特に父親を含めた家庭が子どもとともにどのように成長していくかを支援する方向性「ディジーズ・オリエンティド（病気の発見を志向する）」から「ヘルス・オリエンティド（健康づくりを志向する）」の発想へと転換し、病気と関連したリスクを早期に発見するのは専門家だけが中心になるのではなく、毎日子どもと接する両親がセルフケア能力を向上させていこうとする手法を導入した。特に父親の役割が大きく、成長するのは子どもだけでなく、家族も楽しく成長していこうという「ファミリーデベロップメント」の考えを大事にした。

両親が楽しく育児できる力をつけるためには、育児不安はあたりまえのこととして受け止め、家族のサポートや地域の母親同士の友達を通して自らも育ち合う関係が大事であることを母親同士の話し合いから気づき合う場となることにこころがけた。

従来の集団指導との比較においては「育児を適切に行っていない母親に対して指導する」という意識を持たず「支援する」「情報を提供する」「受診してよかったと思ってもらえる」という意識で臨んだ。介入群に配布するパンフレットにはこのような理念と、各地域で行われている母子保健事業や地域の育児ｸﾞﾙｰﾌﾟの紹介や先輩ママからの子育てに関するメッセージを盛り込んだ。また、集団指導の方法は従来の専門家主導の知識提供型から母親同士の交流から気づきあい母親たちが知りあいになれる参加型へと転換させた。

「集団指導」における新しい相互支援活動

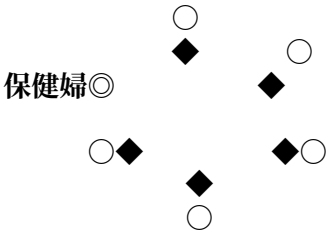
目的：①育児を負担に感じず、子育ての楽しさや母親同士が交流する楽しさを味わえる。
②心配事があるときは、町役場や市役所に相談したいと思える。子どもの成長とともに両親も成長していくシステムをつくる。

内容：母親同士の交流を図る。子育ての感想を語ってもらう。子育ての方法については参加者に問いかけ、選択を押しつける表現は避けながら講話する。

場の設定：座る。開始までは乳児は床に寝かせていい。乳児期の手作りおもちゃを置く。待ち時間に交流を図る。

配付資料：母子保健事業の紹介や地域の育児グループなどの案内を載せたパンフレット

実施状況：



健康志向型子育て支援介入マニュアル

うけつけ　地区と赤ちゃん、母親の名前を名札に記入して胸にはる。

場の設定　赤ちゃんを床におけるようにする。母親同士が輪になって座るように進める。手作りおもちゃを置く。始まるまで同士で交流できるように声かけしたり交流しやすい雰囲気をつくる。

挨　拶	①健康診査の目的は病気の早期発見だけでなく、母親の子育て不安の解消の場や母親同士知り合える機会仲間づくりの場になってほしいことを伝える。 ②母親の住んでいる地区を地図の中に印する。住所と母親の名前、子どもの名前を紹介する。
子育て経験の交流	子育てで大変だったことや、父親の育児参加の様子を情報交換する。自分はどのような子育てをしていきたいかを交流しあう。
成長の確認	隣の子どもとの比較でなく母子手帳を見ながら自分の子どもの成長の確認をし、「腹這い」や子どもとの手遊びなどを通して少し先の成長の見とおしを持つ。
地域の子育て環境情報提供（パンフ紹介）	母子保健事業の紹介と、地域の子育てサークルをのせたパンフレットを紹介 神経芽細胞腫の検査セットを確認
栄養士の話	離乳食の試食。 離乳食初期の話を問いかけながら行う。
個別指導	個別指導にまわる人への声かけ

従来の集団指導

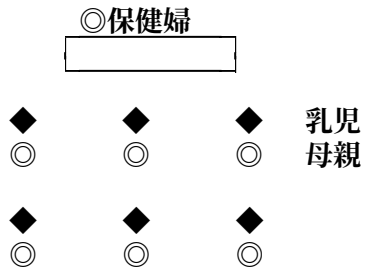
目的：月例に応じた日常生活、食生活に関する知識を理解させる。

内容：乳児の生活リズム、発達上必用な遊び、、離乳食の進め方などについて正しい子育ての方法について専門家主導の講義を行う。

場の設定：乳児を抱いたまま聞く。
開始まで待ち時間がある。

配布資料：市販パンフレット

実施状況：



D.考察

健康志向型の子育て支援介入効果

厚生省が母子保健の理念の転換を示した４か月児健康診査の集団指導における健康志向型の子育て支援を実践するために具体的な目標と介入マニュアルを作成してその効果を計画的に評価した。

我が国における母子保健関連の調査は行政の実施する乳幼児健康診査などが調査の場になった場合、ニーズ調査がほとんどであり、効果測定を意識した場合には事例研究などが多く、人間集団を対象として疫学的な手法を導入し、効果判定を科学的に行った調査はまれである。

今回実践した乳幼児健康診査における新しい介入は、20 分から 30 分程の短い時間の介入であったが、知識普及型の講義形式から、対話方式に変換させた方法によって、母親たちは従来の方法に比べ、自由に交流する姿がみられた。問診で子どもの子育てを評価されるという意識で緊張していた母親が、健診が終了したあとのほっとした時間での話し合いが日頃の育児を見つめ直す機会となっていた。

また出産後ほとんど外出できず閉じこもりがちな母親にとって、同じ月例の子どもをもつ母親に多く出会う機会が､「仲間」への意識を広げていたと考えられる。

現在、乳幼児健康診査への期待が薄れてきており、個人受診への方向にも進んでいる。集団で乳幼児健康診査を行うことは、異常の早期発見といった「疾病探索志向型」の健康診査から「健康志向型」へ転換を図る上で、母親たちのニーズに応えられるような交流や仲間づくりの場の設定が乳幼児健康診査への期待度も向上させる可能性があると考えられる。

今回作成したパンフレットは、市販されている知識普及型のハウツウをのせたものではなく、保健婦が乳幼児健康診査で出会う母親たちとともに地域で子育てを考えていきたいというメッセージを記載した。
孤立しがちな母親に対して先輩ママからのメッセージは、少し先の育児の見通しができるきっかけとなり、育児は母親一人で抱え込むのではなく、家族や地域の人々とともに支え合いながら行うものであることを、この時期に伝えるものとなる。また、母子に関する保健や医療、地域の育児情報はそれぞれの機関がばらばらで単発な情報であり、母親が一つひとつ集めなければならない。今回、子育てグループなどの地域情報をマッピングしたことは、母親に自分の住んでいる地域を意識するために有効であった。少子化にともない出生数の少ない地域においては日常的に子どもに接する機会が少ない。乳幼児健康診査で同じ月齢の子どもをもつ母親との出会いを有効に結びつけるためには、自分の住んでいる地域の母親が一堂に介する乳幼児健康診査の場での意図的な介入が有効である。保健婦などの専門職はその出会いのきっかけを上手につなげていくことが必要である。

どのような健康レベルにあるものに対しても健康要因に働きかけ、そのレベルを向上させることを目的とする健康志向型の概念を浸透させることで、育児不安の発生をくい止める予防的意義と、育児不安の対処行動や子育てに関する両親のセルフケア能力を高められる可能性があると考えられる。乳幼児健康診査の機会

を活用して育児不安規定要因に介入できる可能性があり、乳幼児健康診査の目的を疾病やリスクの早期発見ばかりに置かず、両親のセルフケア能力を高めることを含めた子育て支援サービスとして位置づける新しいシステムを、これまでの母子保健システムに導入していける可能性が示唆された。

以上の考察は、予備調査結果に基づくものであり、最終的には、３００人を越す調査対象における追跡調査結果をみて、その科学的事実に基づいた健康志向型支援マニュアルを作成していく予定である。

E 結論

健康志向型の子育て支援介入モデルを作成し、介入マニュアルに沿った介入調査結果として、予備調査の段階では、介入群に受診満足度が高く、手段的評価の一つである「対処行動」がポジティブである傾向が示された。

乳幼児健康診査の機会を活用して「母親同士の交流」の場を設け、育児を負担に感じることなく、子育ての楽しさや母親同士が交流することの楽しさを味わえ、困ったときには相談したいという両親のセルフケア能力を高めることを目的とした介入方法は、健康志向型の子育て支援サービスとして有効である可能性が示唆された。

F 研究発表

１．論文発表

今年度に学会に報告した論文を示した。

1) 英国の保健医療改革とその評価ー患者のために働こう白書がめざすものー.星　旦二、藤原佳典.保健医療社会学会　.p7-18.10.1999.
2) 保健ニーズとその明確化星　旦二、他.保健婦雑誌.55(9).726-730.1999
3) 都道府県別平均寿命の経年変化とその特性谷口力夫,星　旦二厚生の指標.46(11).24-31.1999
4) 社会・人間ネットワークと健康星　旦二、他.日本医師会雑誌.123(3).383-389.2000
5) 健康日本２１地方計画がめざすもの.星　旦二.社会保険.24-27.1999
6) 主観的健康感に関する研究総覧星　旦二.公衆衛生情報.29(8).14-17.1999

２．学会発表

以下の学会発表を行った。

1) 東京都特別区二次医療圏別に見た健康水準の経年的変化.藤原佳典,星旦二.日本公衆衛生雑誌.46(10).1999
2) 東京都特別区男性の年齢階級別死亡率と平均寿命.谷口力夫,星旦二他.日本公衆衛生雑誌.46(10).1999
3) 子どもと高齢者が共に楽しく暮らせるまちづくり本間直子,星旦二他.日本公衆衛生雑誌.46(10).1999
4) 生涯現役推進研究.星旦二他.日本公衆衛生雑誌.46(10).1999
5) 地域での保健と医療・福祉の連携に関する研究（その４）.直島淳太,星旦二他.日本公衆衛生雑誌.46(10).1999
6) 地域での保健と医療・福祉の連携に関する研究（その５）.實成文彦,星旦二他.日本公衆衛生雑誌.46(10).1999
7) 東京都特別区別直腸がん SMR 経年変化及び大腸がん SMR と人口・社会経済因子との関連に関する研究.梶井康子,星旦二他.日本公衆衛生雑誌.46(10).1999
8) 在宅介護者の続柄からみた身体活動量.渡部月子,星旦二.日本公衆衛生雑誌.46(10).1999

G. 知的財産権の取得状況

知的財産権は、ない。

楽しい育児

育児の方法で最良で絶対で唯一の方法などありません。
育児書などにはいろいろな方法を行うように勧めてあったりするかもしれません。
医師・保健婦・友人などに相談したり地域の育児グループなどに参加してあなた自身の方法を作りあげていきましょう。

○○市健康管理課

生活を豊かにしてくれる育児

両親が参加し、支え合う楽しい育児

＊子どもを持つことは人生で最もすばらしいことのひとつです。
＊それは大きな喜びと新しい変化を経験し、同時に責任を感じるときでもあります。
＊あなたと子どもがお互いのことをわかりあっていくのと同じように新しく変化していくことに対しては新しい技術と同時にそれに慣れていくことが必要です。
＊両親がともに支え合って楽しい育児をしていきましょう。

★育児不安はあたりまえ

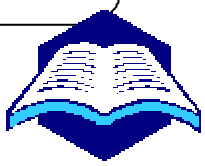
育児で悩むのは誰にでもあてはまるあたりまえのことです。

・育児不安はどんなときにおこるのでしょう？
病気ではないか？
成長は順調なのだろうか？

・不安がおこった時にはどのような対処方法をとっていますか？
相談できる人は何人いますか？

ある調査では夫が支えてくれると感じている母親は育児不安が少ないという結果が出ています。また、友人などサポートしてくれる人の数が多い人ほど育児不安が少ないという結果もあります。

成長の見通しをもてることが大切です。



【先輩ママからのメッセージ】

子育ては単純なことの繰り返し。昼夜いつも泣いてばかりでどうしたらいいかわからない日もあったけど振り返ってみると一時的なこと。頑張りすぎずに行こう。

育児サークルで知り合った友達とは家族ぐるみでおつきあいしています。子どもも喜び、親もお互い学べてストレス解消になって楽しいですよ。

★成長するのは子どもだけ？
親もともに成長する子育て

育児」と 育自」

子どものなにげない動作やひとことで親が自分を振り返ることがあります。
成長するのは子どもばかりではありません。
家族も楽しく成長していきましょう。

お父さんだって子育てがしたい

子どもの成長はその瞬間に出会うことがとても感動的です。

食べた　笑った　立った

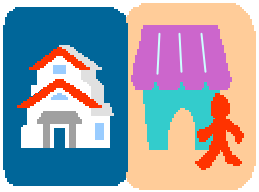
お座りできた　パパと言った　歩いた

二人で子育てについての話し合いはしていますか？
お父さんとともに子どもの成長を楽しみましょう。
＊お父さんにも子育てする権利があります。

両親を中心とした楽しい育児を

毎日子どもたちと過ごして、身近に接している両親が一番よく子どもの状態を理解しています。健康診査の役割は、「病気の発見を志向する＝デイジーズ・オリエンティド」から「健康づくり＝ヘルス・オリエンティド」を支援する発想へと転換させています。専門家が判断するのではなく、両親が主体となって今までの成長の確認の場と考えて上手に活用していきましょう。

地域の仲間とともに子育てを考えよう



子ども同士の仲間づくり
お母さん同士の仲間も大事
・いろいろな月齢の子どもとの交流・母親同士の交流
・・・成長のみちすじがみえる
・情報交換　・・・たまにはぐちも
・・・子育ての確認の場
・・・地域に共通な子育ての課題を考える

健康づくり

問い合わせ先；健康管理課

健　診

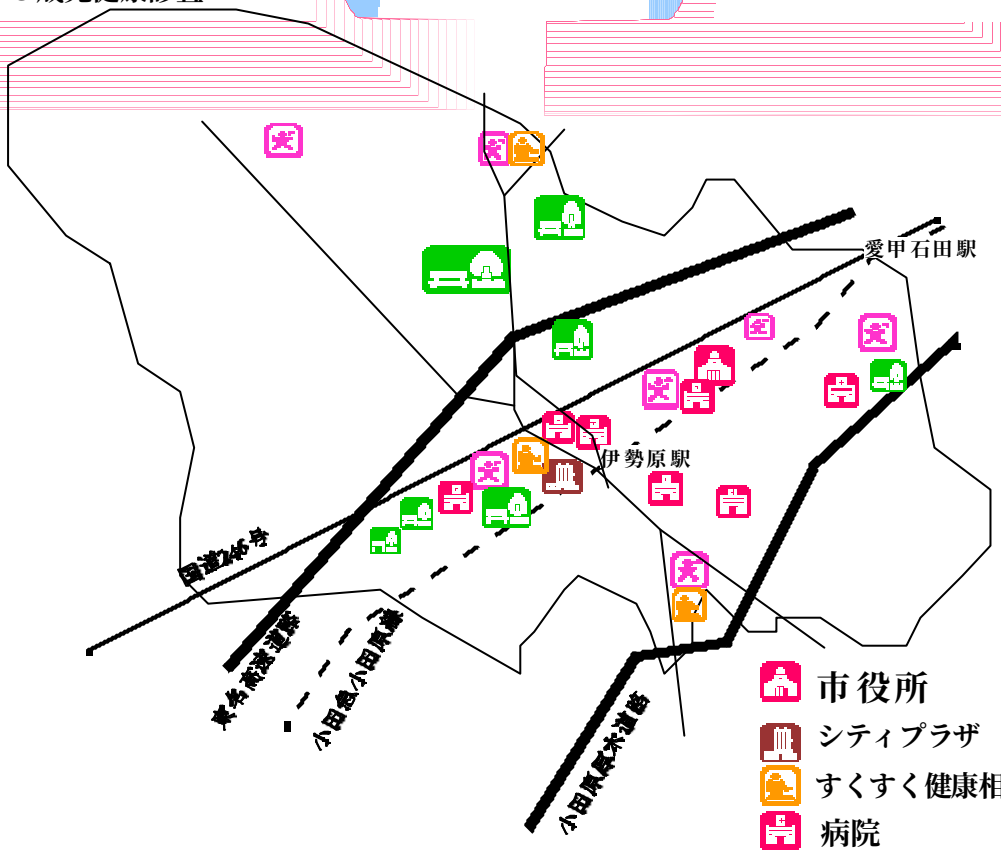
４か月児健康診査
お誕生前健康診査
１歳６か月児健康診査
２歳児歯科健康診査
３歳児健康診査

相　談

７か月健康相談
すくすく健康相談
電話相談

教　室

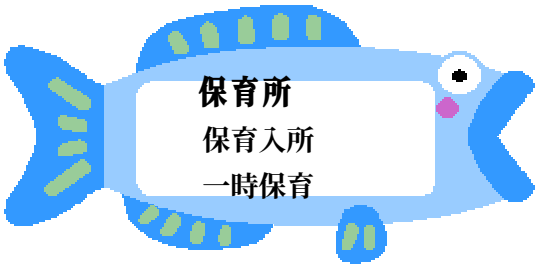
離乳食教室
・前期（４～６か月）
・後期（９～12 か月）



市役所
シティプラザ
すくすく健康相談
病院
子育て広場
公園

子育てサポート

子育て支援センター
子育て広場
フリースペース



保育所
保育入所
一時保育